

## 産業看護マトリックス研究会の主旨・経過と研究報告成果の学会報告内容

1. 名称は3回変更しました。

当初は産業看護事例研究会、次は産業看護システム研究会、現在は産業看護マトリックス研究会です。

2. 1985年11月に産業看護事例研究会として日本看護協会保健師職能委員会事業所小委員会のメンバーで発足しました。

発足当時から神奈川大学工学部工業経営学科教授北尾誠英先生の指導のもと事例の一つ一つの事実から原理原則などを組み立てる「帰納法」による研究活動と個別事例を徹底的に解析し、問題解決技能の開発に取り組み、事例解析による問題解決スキルの習得を目指して継続しています。北尾誠英先生は、私たちの研究会発足前から病院（臨床看護）における看護管理の研究と看護管理者の問題解決スキルの習得に携わっていました。

産業看護においても、北尾誠英先生のご指導のもとで研究を進めてきました。現在は先生の御意向を引継ぎ、産業看護専門職になるための必要な能力（スキル）として、新人期・中堅期チェックリストの作成と、新人期のチェックリストを基に、産業看護職がスキルの成熟度を高められるよう、自己育成教育計画の実証を行っています。また、中堅期のチェックリスト作成と検証を経て、自己育成教育活用のマニュアル作成をしていく予定です。現在、北尾誠英先生亡き後、北尾誠英先生の研究会に参画されていた（一財）日本総合研究所の阿部哲也氏のご協力のもと、産業看護マトリックス研究会は継続しています。

### 研究成果としての学会報告の概要

研究成果は学会報告をしています。この学会報告は参加者の財産です。ぜひ、参考文献として活用していきましょう。

事例に基づく研究成果は、産業組織における産業看護活動領域の体系化から始まり、産業組織でのスキルの検証、事例から集大成したパソコン使用による事例解析手法（産業看護マトリックス思考）の完成です。現在の研究継続課題は、自己育成計画に取り組めるようにチェックリスによるキャリア計画開発に取り組んでいます。

1991年3月	<b>産業看護—問題解決事例集を出版。</b> これは、学会報告第1報～7報までのまとめであり、その主な内容は、 ①産業看護の領域 ②産業組織で展開される看護活動のPMCによるアプローチ ③看護活動の問題解決のためのマトリックス思考の導入
---------	---

	<p>④課題解決のためのスキル  ⑤職場診断自己診断として定性から定量へ  ⑥職場診断自己診断のチェックリストの作成検討  ⑦問題解決能力育成への取り組み等、です。  本書は産業看護活動の実践バイブルになっていると思います。</p>
1992年～ 1998年	<p><b>S L理論実証研究</b>  学会報告 第8報～21報  S L理論とは状況適応理論であり、産業看護活動のマネジメントスキルとして産業看護領域に取り組むための研究を行いました。</p>
2006年～ 2010年	<p><b>産業看護活動におけるマトリックス表の完成：</b>  学会報告 第1報～第10報  マトリックス思考を取り入れることにより全体的な視点を失うことなく、どこに働きかければどうなるかを予測して行動指針を明らかにし、行動計画の立案に役立てていくようにする。意思決定の形成力である。マトリックス思考を産業看護活動の領域に適応していくために、事例解析の技法を確立し、事例作成の標準化、マトリックス表の運用、産業看護組織の設計、パソコンの有効活用等からマトリックス表を完成しました。(120事例 600管理ポイントから産業看護 28機能抽出)。</p>
2010年～	<p><b>自己育成計画によるキャリア開発</b>  学会報告第1報、第2報  産業看護活動は、統合機能となる方針決定、組織編成、組織参加、業務計画、業務調整、部門間調整、人材育成、労務管理等がうまく作動しなければ、これに続く直接機能となる健康教育、衛生教育、職場巡視、健康相談、健康診断、要管理者管理、応急措置、資料管理等が円滑に進展しないところに産業看護の特徴があります。  産業組織の中で展開される看護活動に接近するための視点として「PMC局面」を設定しました。これは、産業看護活動の実践目標を達成するための必要な活動領域であり、  「P」(=performance)：産業看護職務の遂行  「M」(=maintenance または motivation)：集団維持、動機づけ  「C」(=creation)：課題・改善目標  の3局面をPMCによって方向づけます。言い換えれば3局面のスキルが必要だといえます。  ➤ 「P」(performance)：  産業看護業務遂行に直接関連した基軸を意味し、これを支えるパワーは、看護知識や看護技術であり、総称して「テクニカルスキル(technical skill)」</p>

	<p>➤ [M] (maintenance または motivation) :</p> <p>対人関係や職場集団への適応に関する基軸でありこれを支えるパワーは人間に対するスキル (human skill)</p> <p>➤ 「C」 (creation) :</p> <p>「P」と「M」との統合、部外者や他職種との連携、変化の先取りなど産業看護職を取り巻く環境に創造的に働きかける局面を意味します。これを支えるパワーを「コンセプチュアル・スキル」(conceptual skill) つまり、物事の本質を洞察し、概念化することによって、職場の統合と革新を促進する原動力で、リーダーシップの発揮であり、産業看護マトリックス研究会では「問題解決能力」と考えています。</p> <p style="text-align: center;">PMC別スキルインベトリー (skill inventory) スキル・インベトリー (産業看護職の保有技能)</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 5%;">P</td> <td style="width: 20%;"><b>産業看護技能</b></td> <td>指導力、観察力、ケアー能力、分析力、行動力</td> </tr> <tr> <td>M</td> <td><b>対人関係技能</b></td> <td>協調力、伝達力、傾聴力、説得力、接遇力</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td><b>問題解決技能</b></td> <td>企画力、判断力、先見力、調整力、折衝力</td> </tr> </table> <p>&lt;学会報告&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 第1報 産業看護職スキルチェックリストの開発 — 新人期スキル項目の開発 — 産業看護職が3年以内に習得すべき実践能力を“基礎スキル”とし、新人産業看護職のための「基礎スキル表」を開発した。</li> <li>● 第2報 産業看護職に求められる実践能力開発プログラム 新人期に必要な産業看護実践における基礎スキル項目の難易度設定を行い、それを元にスキル向上の着手順位を検討した。</li> </ul>	P	<b>産業看護技能</b>	指導力、観察力、ケアー能力、分析力、行動力	M	<b>対人関係技能</b>	協調力、伝達力、傾聴力、説得力、接遇力	C	<b>問題解決技能</b>	企画力、判断力、先見力、調整力、折衝力
P	<b>産業看護技能</b>	指導力、観察力、ケアー能力、分析力、行動力								
M	<b>対人関係技能</b>	協調力、伝達力、傾聴力、説得力、接遇力								
C	<b>問題解決技能</b>	企画力、判断力、先見力、調整力、折衝力								

産業看護職は、特に一人職場では新人期でも専門職として産業組織に関わっての問題解決が期待されます。

例えば産業保健活動の見直し企画の要望や、メンタルヘルス復職時の産業医・人事・本人の所属長・看護職との関係による問題解決等、実務知識や実務経験が少ない時期にも対応を求められるのが現状です。新人期からマネジメント能力（問題解決能力が期待されるのが産業看護職の特徴ともいえます。

産業看護マトリックス研究会は「C」問題解決能力を高めるため、事例から知識を活用する技能（スキル）の習得を図っている研究会です。また、事例から産業看護キャリア開発のための研究活動を続けています。

問題解決能力を高める研究会ですが、新人期の方で、当面の問題解決が必要な場合はメンバーで解決のための支援を行うようにしています。

事務局の交代に当たり、過去・現在・今後について概要をまとめました。

産業看護職のチェックリストによるキャリア開発の完成と活用マニュアルの完成を北尾誠英先生へご報告が一日でも早くできるように、みんなで開発に取り組んでいます。

産業看護マトリックス研究会会長 富山 明子